

令和4年度 水産関係事業の概要

滋賀県農政水産部水産課

令和4年3月16日

水産関係予算総額

令和4年度 当初予算額	令和3年度 当初予算額	増減
528,558千円	725,253千円	△196,695千円

※予算額は職員費を除く。

「当初予算額」欄中

「国」とあるのは……………国庫支出金

「繰」とあるのは……………繰入金

「起」とあるのは……………県債

「諸」とあるのは……………諸収入

「○」とあるのは……………一般財源

を示します。

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
<p>【水産課】</p> <p>水産基盤整備事業費</p>	<p>206,141 (378,506)</p> <p>国 93,000</p> <p>繰 6,544</p> <p>起 88,900</p> <p>⊖ 17,697</p>	<p>1 水産基盤整備事業費 206,141</p> <p>(1) 水産基盤整備事業費 185,465 湖底耕耘とともに、砂地造成を行い、湖底環境改善を図り、琵琶湖固有種であるセタシジミや在来の沿岸性魚類、回遊する魚類をはじめとする、水産資源の増大を図る。 びわ湖地区(山田沖工区) 砂地造成 : 4.5ha</p> <p>②(新) 水産基盤整備調査費 6,000 増殖場施設の機能低下の課題に対応するため、その現況機能調査およびその回復手法について調査を行い、対策について検討する。</p> <p>(3) 造成水ヨシ帯機能確保緊急対策事業費 4,730 造成水ヨシ帯(新旭地区)において、オオバナミズキンバイの繁茂状況の確認および除去を行う。</p>
<p>流通対策費</p>	<p>19,002 (21,409)</p> <p>国 9,100</p> <p>⊖ 9,902</p>	<p>重1 びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業費 8,200 学校給食における多様な湖魚の利用を促進するとともに、新メニュー開発や研修会への支援、関係者に湖魚の利用方法などの情報提供、食育活動支援を行う。</p> <p>重2 多様で革新的な流通モデル実践事業費 10,000 今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、漁業組織が経営スキルの強化を目的に、流通事業者と連携して新たな流通モデルの検討・実践を行う取組を支援する。</p>

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
資源管理体制高度化 推進事業費	14,591 (16,860) 諸 1,244 ⊖ 13,347	1 資源管理体制高度化推進事業費 1,244 滋賀県資源管理協議会の委託を受けて、資源管理対象魚種であるニゴロブナ、セタシジミ、ホンモロコおよびビワマスについて、新たな資源管理手法の検討に資する資源状況や漁獲動向等の調査を実施する。
水産有害生物対策事業費	30,193 (32,874) ⊖ 30,193	1 有害外来魚ゼロ作戦事業費 28,085 外来魚ゼロを目指し、捕獲駆除や繁殖抑制を中心に、総合的な事業を展開するとともに、検討会の意見を聴きながら、生息状況に応じた効果的な駆除が行えるよう進行管理を行う。 (1) 外来魚駆除促進対策事業費補助金 20,409 漁業者による外来魚駆除に対して捕獲経費を助成するとともに、備船による小型オオクチバスやチャネルキャットフィッシュの集中的駆除に要する経費を助成する。 駆除量：85 トン (2) 外来魚回収処理事業費補助金 6,656 捕獲された外来魚の回収と有効利用に係る経費を助成する。 2 カワウ漁業被害防止対策事業費 2,108 カワウによる河川における漁業被害を軽減するため、花火による追い払いや防鳥糸の設置を支援する。

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
<p>多様で豊かな湖づくり推進事業費</p>	<p>69,716 (67,571)</p> <p>国 11,649</p> <p>諸 8,158</p> <p>⊖ 49,909</p>	<p>重 1 ニゴロブナ栽培漁業推進事業費 23,373</p> <p>栽培漁業の中核的魚種であるニゴロブナ種苗を生産放流するとともに、放流効果を調査する。 20mm サイズ種苗：800 万尾 120mm サイズ種苗：90 万尾</p> <p>2 多様な水産資源維持対策事業費 8,343</p> <p>琵琶湖固有種であるビワマスや、ウナギの種苗放流に対して助成する。 ビワマス種苗：700 万尾 ウナギ種苗：1,000 kg</p> <p>3 アユ等水産資源維持保全事業費 34,030</p> <p>(1) 人工河川管理運用事業 31,768 産卵用人工河川を稼働し、効果的にふ化したてのアユを琵琶湖に流下させ、アユ資源の安定維持を図る。 養成親魚：8 トン 天然親魚産卵繁殖対策：4 トン</p> <p>4 セタシジミ資源の持続的管理実証事業 3,970</p> <p>セタシジミの効果的な資源管理のため、再生産の現状把握と資源管理目標の検証、種苗量産放流技術の確立と漁場への種苗放流、親貝の移植放流や禁漁等を行うとともに、検討会において効果的な資源回復手法を検討する。</p>
<p>河川漁業振興費</p>	<p>4,067 (3,846)</p> <p>⊖ 4,067</p>	<p>1 川の魅力まるごと体感事業 1,067</p> <p>河川漁業の振興のため、河川漁業への県民の理解の促進と遊漁者の増加に向けた取組を実施する。</p>

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
水産業改良普及事業費	19,992 (16,869) 国 8,354 ⊖ 11,638	<p>重 1 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業費 15,450</p> <p>今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実を図る。</p> <p>2 琵琶湖漁業ICT化推進調査事業費 3,000</p> <p>アユ小糸網漁業、沖曳網漁業での漁労行為をデータ化することで、漁獲の安定化、漁労技術の継承を図る。また、ビワマス小糸網漁業の網掛かり時間帯等を把握し、高品質ビワマスの漁獲割合増により、魚価の向上を図る。</p>
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費	42,178 (47,575) 国 661 ⊖ 41,517	<p>1 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費 42,178</p> <p>赤野井湾を本プロジェクトの最重要拠点と位置付けて、南湖・内湖では水草除去や外来魚駆除、種苗放流による水産資源の回復、漁場の再生を図り、北湖では産卵繁殖場の機能改善による水産資源の増大を図る。さらに、河川での環境保全活動も支援する。</p>
漁業調整指導費	11,576 (7,207) 国 2,382 使 1,249 ⊖ 7,945	<p>新 1 しがの漁場利用ルールの見える化推進事業 5,000</p> <p>琵琶湖や河川の漁場の位置や利用ルール（禁止区域、禁止期間、遊漁料金等）を集約し、WEBで公表するとともに引縄釣遊漁者による採捕報告のオンライン化を図ることで、オープンで公平な漁場利用を実現する。</p>

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
<p>【水産試験場】</p> <p>試験研究調査費</p>	<p>14,053 (19,953)</p> <p>国 2,375</p> <p>諸 1,092</p> <p>⊖ 10,586</p>	<p>水産行政が直面する重要課題の中で、特に技術的解明が急がれる事項について、重点的かつ積極的に調査研究を行う。</p> <p>1 アユ資源・漁獲情報発信高度化研究 2,978</p> <p>アユのふ化時期を考慮した資源評価モデルを開発するとともに、科学計量魚探等を用いた精度の高い資源・漁獲動向予測技術を開発し、人工河川による迅速な増殖対策や資源管理等への施策へつなげる。</p> <p>2 外来魚駆除対策研究 2,291</p> <p>外来魚の生息状況を的確に把握し、その変動要因の解明に取り組むとともに、駆除量を増大させるための効率的な駆除技術を開発する。また、分布域を拡大しているチャンネルキャットフィッシュの防除対策研究に取り組む。</p> <p>3 湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究 635</p> <p>流入負荷削減などのこれまでの取組によって水質指標は改善されたが、依然として、琵琶湖の漁獲量は低位のままであることから、湖底に蓄積した栄養塩を水中に回帰させることによる漁場生産力の回復技術の実証研究に取り組む。</p> <p>4 淡水真珠母貝の生産安定化研究 977</p> <p>真珠養殖における課題である母貝の安定的な生産技術の開発に取り組む。また、本来の琵琶湖淡水真珠を復活させるため、在来イケチョウガイの系統保存に着手する。</p>
<p>調査指導費</p>	<p>1,510 (1,410)</p> <p>国 1,000</p> <p>⊖ 510</p>	<p>① 特産マス類を用いた河川利用の高度化と優良種苗化研究 1,510</p> <p>適切で効果的な河川への種苗放流方法を開発するとともに、姿形が美しく、放流効果の高いアマゴ・イワナ種苗を作出し、先の放流方法と組み合わせることで、河川漁協の経営安定化を図る。</p>